

令和7年度冬季号（年4回発行）

息軒だより 第52号

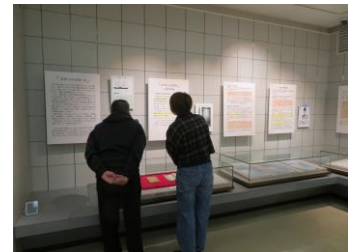
発行 宮崎市安井息軒記念館
〒889-1605
宮崎市清武町加納甲3378-1
TEL 0985-84-0234
FAX 0985-84-2634
e-mail: sokken.yasui@pic.bbiq.jp
https://yasuisokken.jp

冬の企画展開催中

1月24日から3月29日まで冬の企画展「息軒の外交論」が開催中です。

令和5年度の「息軒の教育論」、令和6年度「息軒の政策論」に引き続き、今回は息軒の著作から、国防に対する意見をまとめて解説する展示です。

息軒といえば、「日本一之儒者」「文久の三博士」と謳われたことで知られ、漢籍を研究する学者というイメージが強いですが、現実社会への関心も強く、その著作や書簡の中には西洋諸国の情勢に対する分析が散見しています。開国を迫られ混乱した日本が取るべき対抗策を息軒は冷静に論じています。息軒の意見は的を射ており、現代に通づるものがあるのではないのでしょうか。当時西洋諸国をどのように分析し、日本をどのように守ろうとしていたのか、ゆっくりとご覧いただければ幸いです。



第6回記念館講座



12月20日（土）に第6回記念館講座が行われました。講師は日南市教育委員会文化財担当官長友禎治氏です。

「平部嶠南と清武の人々」というテーマでお話してくださいました。清武中野出身の飢肥藩家老平部嶠南は、幼い頃から安井息軒に学び、藩校振徳堂で教育にあたった人物です。『日向纂記』や『日向地誌』など宮崎の歴史書を編纂し、宮崎の歴史的に重要な人物ですが、知名度は県内でも高くありません。嶠南が飢肥にどのように貢献したのか来歴やエピソードを交えて解説がされました。

受講者の中には、平部嶠南の名をはじめて知ったという方が一定数いました。安井息軒とともに、平部嶠南の名を知っていただく機会となりました。

第7回記念館講座



2月7日（土）に第7回記念館講座が行われました。講師は広島大学文学部准教授青山大介氏です。この講座は冬の企画展の解説を行う講座でした。青山先生は企画展の監修も行ってくださいました。そのため講座では企画展では解説しきれなかった詳細な解説を行ってくださいました。今回はじめて受講される方も多く、定員人数以上の方々に受講していただきました。ありがとうございました。

息軒バスツアー



12月7日の日曜日、都於郡城跡と周辺史跡を巡るバスツアーを実施しました。息軒の『志濃武草』の行程を追って史跡を巡るという企画です。バス内では、息軒の歩いた道や当時の地形など、館長の詳しい説明を入れながらの道中となりました。都於郡城跡と歴史館は西都市社会教育課の津曲氏の解説で見学してまわりましたが、説明がとても分かり易いと参加者から好評でした。また、歴史館の方のご厚意で手配していただいた弁当も豪華で美味しく、満足度の高いバスツアーとなりました。

もし、安井息軒が歴史ドラマになったら、果たしてお佐代さんはどんな女性として描かれるのでしょうか。小説『安井夫人』のお佐代さんは、陰で夫を支えた控えめですが凛とした美しい女性です。しかし、それはあくまで小説というフィクションの中のお佐代さんです。息軒が様々な史料から確かな人間像を構築できるのに比べ、佐代像を描くことは、史料不足から非常に困難です。

小説『安井夫人』は、お佐代さんが主人公です。しかし、お佐代さんにはセリフがありません。小説内でお佐代さんが発している言葉は、「はい」の一言のみです。この小説は息軒を史実に沿って描き、お佐代さんを鷗外の想像だけで描写するという「歴史其の儘」と「歴史離れ」が混在した不思議な小説です。梅光学院大学教授の中野新治氏は『安井夫人』というその作品名にもかかわらず、息軒に比べ記述が少なく人間像が究めにくいと言われました。また、お佐代さんの生き方を自己滅却、あるいは無償の愛として論じる研究者がいる一方で、そのような推定で描かれた佐代像は幻像に過ぎず、お佐代さんの正体は、封建的社会から抜け出て非制度（制度の枠外）を生き抜いた女性だと考える研究者もいます。この両極端の現象は、お佐代さんに関する史料が無いことに起因します。また、息軒がお佐代さんをどのように思っていたのかも気になるところですが、後妻のお榎さんについて書かれた書簡は残っているもののお佐代さんについての記述がある書簡はほとんどありません。

あの時代に自分の夫を自分の意志で決めた女性が、ただ夫に寄り添い控えめに献身的に生きて人生を終えたというのはいささか腑に落ちません。

息軒は子供がどのように成長するかは、母親の影響によるものが大きいと言っています。そうであれば、あの勝気な長女須磨子は、お佐代さんの影響を受けて育った結果ということになります。聞きかじりの学問で門生を打ち負かし、夫に小言を言うほどに強気で、また、友人への手紙からは世の中の先を見据えることもできるような女性である事が分かります。須磨子には従順な女性のイメージはありません。これがお佐代さんの育てた須磨子です。

そこでお佐代さんを考えると、もしかしたら彼女は、夫が考える理想の社会の中に、自己を確立した女性たちが存在する新しい世の中を見ていたのかもしれない。やがて出現する平塚らいてうや与謝野晶子のような女性です。娘の須磨子は、佐代の心を具現化した存在だったのではないのでしょうか。

実は、つい最近、息軒がお佐代さんのことを書いた書簡が過去に存在していたという話を小耳にはさみました。しかし、現在その所在は分かりません。無償の愛で夫に献身的に尽くした「美しき半身」というお佐代さんのイメージを壊したくないと考えた人物がいたのかもしれない。その書簡はすでに闇に葬られたのではとも言われています。イメージが覆るかもしれない、それでもなお、いつか発見されることを期待したいです。

呈茶を行いました

1月31日から2月8日まで、茶道団体の方々のご協力で毎年恒例の呈茶を行いました。午後1時から3時までの2時間、先着30名で実施しました。一度に5名ほど入室して約15分間で体験していただきますが、恐る恐る入られた方もお茶をいただきながら心の和む会話で15分後は笑顔。企画展開催と梅の開花に合わせた催しで、今年はまさに梅も見頃、連日多くの来館者でにぎわいました。



防火訓練

毎年1月26日は、「文化財防火デー」です。

文化財防火デーの制定は、昭和24年1月26日に、現存する世界最古の木造建造物である法隆寺（奈良県斑鳩町）の金堂が炎上し、壁画が焼損したことに基づいています。

このことから、翌昭和25年に文化財保護の統括的法律として文化財保護法が制定されました。1月と2月が1年のうちで最も火災が発生しやすい時期であることから、昭和30年に、当時の文化財保護委員会（現在の文化庁）と国家消防本部（現在の消防庁）が1月26日を「文化財防火デー」と定め、全国的に文化財防火運動を行っています。

宮崎市安井息軒記念館も毎年1月に防火訓練を清武南消防署と地元の消防団の協力のもと行っています。今年は1月27日に文化財課を交え訓練を行いました。



講座・イベント・団体見学のお申し込み、お問い合わせは窓口および電話・FAX・メールにて受け付けております。また、出前講座のお申し込みも受け付けております。講座・イベントは、日程および内容が変更になる場合がございますのでホームページで最新情報をお知らせしております。ご確認くださいませ。



HP



Instagram



Facebook